

# 北海道ニューリーダーネットワーク検討会議 現地意見交換会 ＜意見要旨＞

## （１）地域づくり活動の現状と課題について

- 遠別町青年部連携部は、農協、漁協、商工会の各青年部や役場職員等で構成されている。組織発足の経緯は、当時、商工会青年部の部員が減少し、イベント出展などの取組が難しくなってきた時に、町の若い人をみんな集めれば良いという発想で、各青年部の部長に声をかけたことがきっかけとなり、実現したものの。  
課題は、それぞれ職種が違い、繁忙期も異なるので、打合せや会議等で集まりづらいこと。良い点は、違う職種の方と活動することが、お互いに刺激になるし、人数が多くなれば様々なアイデア等が出てくること。
- 同じ年代の人がいないせいか、若者はなかなか青年部に入ってくれない。
- 熱意をもって始めたイベントも代替わりしていくと熱意が失われ、続かなくなるケースがある。続けていくためには、新しいことを取り入れて、わくわく感を出していくことが必要。
- イベントは一部の年代だけをターゲットにすると続かなくなる。また、義務感だけではなく、例えば多少の収益があがるとか、そこにいけば新たな出会いがある等、なんでも良いが参加するメリットがないと続かない。
- 多くの人が連携したいという思いはあるが、先頭に立つ人がいない。連携するための勉強というか、連携の仕方などについて話を聞く場や人を育てる場も必要である。
- まず、みんなで一生懸命やっていけるものを見つけることが重要。漠然とした目標ではなく、具体的な目標を立てないと続けていくのは難しい。

## （２）地域づくりに取り組む方々によるネットワークづくりについて

- ニューリーダーという言葉は、地域を代表するとか、みんなを引っ張っていかねばならない等というニュアンスがある。  
例えば、この意見交換会が留萌地区の交流会だったとしたら、すごく良い勉強になるし、新しいアイディア等が生まれるのではないかと思うが、その反面、地域に戻った時に得た情報をフィールドバックしなければならぬとか、地域で何かしなければならぬとか、そこまで求められるのであれば、それは大きなプレッシャーである。
- 仕事が休めないのので、開催時期や場所については配慮いただけるとありがたい。
- 札幌は人が集まりやすいが、地域づくりの現場を視察できるような機会があると嬉しい。視察する側だけではなく、視察を受け入れる側も、感想やアドバイス等をもらうことで勉強になる。
- 全道統ルールで実施するとしても、各振興局がプラスアルファで開催方法等を工夫して行った方が良い。
- 最終的に地域が良くなるのであれば、青年部等の団体の役職者と事業者が同じ場に参加しても良いと思う。大きな問題ではない。
- 「ニューリーダー」という名称は変えた方が良い。
- 長い目で、地域の人を育てることが必要であり、10年とか15年スパンでやっていかないと成果はでないと思う。